

内 分 泌 ・ 代 謝

科目責任者 麻 生 好 正

学年・学期 3 学年・2 学期

I. 前 文

内分泌・代謝学は、内分泌学と代謝学という異なる二つの内容を学ぶ。内分泌学ではまず、典型的なホルモンの作用とその制御機構を理解する。そのうえで、内分泌腺の疾患（機能異常や腫瘍など）を知り、その病態と症状、診断・検査、およびその治療について学ぶ。代謝学では、糖代謝（糖尿病、低血糖）を中心に、脂質・尿酸・ビタミン等の代謝について学ぶ。正常の代謝制御機構の理解のうえに、代謝異常の原因と病態、症状、診断・検査、治療、合併症について理解する。

II. 担当教員

教 授	麻 生 好 正	内科学（内分泌代謝）
教 授	薄 井 勲	内科学（内分泌代謝）
准教授	城 島 輝 雄	内科学（内分泌代謝）
講 師	登 丸 琢 也	内科学（内分泌代謝）
講 師	飯 嶋 寿 江	内科学（内分泌代謝）
教 授	釜 井 隆 男	泌尿器科学
教 授	中 神 佳 宏	PETセンター
助 教	今 井 貫 太	耳鼻咽喉・頭頸部外科学
教 授	橋 本 貢 士	埼玉医療センター 糖尿病内分泌・血液内科
准教授	土 屋 天 文	埼玉医療センター 糖尿病内分泌・血液内科
准教授	原 健 二	埼玉医療センター 糖尿病内分泌・血液内科
非常勤講師	櫻 井 慎太郎	内科学（内分泌代謝）

III. 一般学習目標

- ・各種内分泌腺より分泌されるホルモンの作用とその制御機構を理解する。
- ・内分泌腺の疾患（機能異常や腫瘍など）を知り、その病態と症状、診断・検査、およびその治療法を知る。
- ・糖代謝、脂質代謝、蛋白質代謝の代謝制御機構を理解する。
- ・糖、脂質、蛋白質の代謝異常の原因と病態、症状、診断・検査、治療、合併症について知る。

IV. 学修の到達目標

- 1) 視床下部・下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎皮質・髄質、性腺より分泌されるホルモンの作用とその制御機構を説明できる。
- 2) これらの内分泌腺の疾患（機能亢進症、機能低下症、腫瘍など）について、その病態と症状を説明できる。診断や病状の評価に必要な検査法（血液・尿検査、負荷試験、画像診断など）、およびその治療法（内科的、外科的）を説明できる。
- 3) 糖代謝、脂質代謝、蛋白質代謝の生化学的な制御機構を説明できる。
- 4) 糖尿病の分類、原因、診断検査法、治療法、合併症を説明できる。
- 5) 脂質異常症、蛋白質代謝異常、肥満・痩せの原因と病態、症状、診断・検査法、治療法を説明できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ, 知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
 2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
 6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	9	29	火	4	内分泌核医学	中 神 佳 宏	1
2		30	水	1	低血糖症	櫻 井 慎太郎	1
3	9	30	水	2	甲状腺ホルモンの生合成機構/作用, 甲状腺機能低下症, 甲状腺炎	登 丸 琢 也	1
4				3	副腎皮質ホルモンの生合成機構, 副腎皮質機能低下症	登 丸 琢 也	1
5				4	糖尿病 (分類, 成因, 診断)	薄 井 勲	1
6				5	糖尿病 (治療)	薄 井 勲	1
7	10	1	木	1	甲状腺の外科	今 井 貫 太	1
8				3	水代謝と尿崩症・SIADH	飯 嶋 寿 江	1
9		5	月	5	異所性ホルモン産生腫瘍およびMEN	城 島 輝 雄	1
10				6	副甲状腺機能低下症	城 島 輝 雄	1
11		6	火	1	血清タンパク異常・アミロイドーシス	城 島 輝 雄	1
12				2	糖尿病 (合併症)	麻 生 好 正	1
13		7	水	1	甲状腺機能亢進症 (バセドウ病)	橋 本 貢 士	1
14				2	カテコラミンと褐色細胞腫	原 健 二	1
15				3	カルシウム代謝調節ホルモンと副甲状腺機能亢進症	土 屋 天 文	1
16				4	肥満とやせ	登 丸 琢 也	1
17		8	木	4	先端巨大症と下垂体性巨人症, 高プロラクチン血症と無月経・乳汁漏出症候群	麻 生 好 正	1
18				5	下垂体機能低下症, 単独下垂体ホルモン欠損症, 小人症	麻 生 好 正	1
19				6	副腎腫瘍の術前術後管理	釜 井 隆 男	1
20		14	水	1	原発性アルドステロン症とクッシング症候群	櫻 井 慎太郎	1
21				2	脂質異常症	櫻 井 慎太郎	1

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

定期試験の成績 (90%) と, 講義当日のミニテスト (10%) にて評価する。

定期試験内の英語問題は「医学英語 III」の評価として集計される。

Ⅶ. 教科書・参考図書・AV資料

講義録：「内分泌・代謝学」 寺本民生，片山茂裕 編 医学書院

参考書：「副腎・性腺疾患の臨床」 東海大学出版，1993年

「図解泌尿器科学3」—泌尿器腫瘍学 メディカルビュー社

「内科書」—内分泌疾患 南山堂

「チャート基礎医学シリーズ5」病理学 永原貞郎著 医学評論社

(知識整理のための一般病理学教科書)

「標準病理学」町並陸生，秦 純一 編 医学書院

(病理学全般の専門教科書)

「カラーアトラス」臨床内分泌病理診断学 笹野信昭 編集 医学書院版

(内分泌疾患における病理学専門書)

「徹底解説！糖尿病治療薬選び方・使い方 第2版」麻生好正，薄井 勲 編 文光堂 2025

「徹底解説！糖尿病合併症管理・フォローアップ」麻生好正 編 文光堂 2021

Ⅷ. 質問への対応方法

講義への質問を随時受け付ける。ただし，事前に秘書を通じてアポイントをとること。

問い合わせ先：内科学（内分泌代謝）講座医局（臨床医学棟7階）月～金曜日 9:00～17:00

Ⅸ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養，利他の精神，医師に求められる品格を身につけ，豊かな人間性を育み，他の医療者と協調して，多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	○
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び，情報・科学技術を活用して，生涯にわたって自ら問題を発見し，解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と，その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し，課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み，医学・医療の進歩に貢献することができる	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験について，間違いや誤解が多い点を随時解説します。ただし，事前に秘書を通じてアポイントをとること。

問い合わせ先：内科学（内分泌代謝）講座医局（臨床医学棟7階）月～金曜日 9:00～17:00

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前学習（20分）：LMSに予習用の資料を配信するので，必ず予習すること。

講義当日予習資料よりミニテストを行う。

事後学習（20分）：主要な疾患に関する，自他覚症状，検査法，合併症，治療法等，その日のうちに記憶する。

XII. コアカリ記号・番号

PS-01-02-04, PS-01-02-05, PS-01-02-06, PS-01-02-28, PS-01-02-29, PS-01-02-30, PS-01-02-34, PS-01-02-35, PS-01-02-36, PS-01-04-07, PS-01-04-08, PS-01-04-09, PS-01-04-12, PS-01-04-18, PS-02-14-01, PS-02-14-02, PS-02-14-03, PS-02-14-04, PS-02-14-05, PS-02-14-06